安永六丁酉歳旦

東濃釜戸

世界に於ての茶の
みのり小提ける
春と迎へられ

耕さぬ庵りも今朝そ餝り藁　竜山亭 松軒

蓬莱の鮮楽改まりぬ村　路雉

松小提ふ雀や今朝ハ餝り竹　然石

雪峯れの御け崇なり門の松　春芝

初春やおのゝ先へ松ひそ先　宥里

いさきよ世や鶏も八声の風物　峰友

諸山の敷目出度俵も飾　柳枝

よもの梅の陽もめつらし屋雉の辞　雨柳

出初子や名も添けて哥　打恵

え日や若木の日も肯こよひ詰　苗木 条丸

年ハ知らふ老へハ捨る君の哥　〃 吟水

改まるや子共やり天までも　〃 流下

山もしく餝る庭もやゝ菊の動　大富 菊窓

雉子ハ野も家鳥や若菜物　小里 杉里

花の甚垂て嫁しさよ君の兜　汎田 松柳

人日

来る君や思ふ民もも若菜摘　渓兎

文通旦暮

去年今年ハ今年ハ来り鶏の声　江戸 竹舎

来ル年の鶏まて申乃師之代　仝

人日

今年ハ多君の妻結ひの思ひ立り
きく宋ひゝ人の和とに並に移すのこ

先君も祈をしめや謝けら　在江戸 十五舎 枕渓

春興

湯歳りの夢さのもらし鯉月　渓兎

春雪も伴達乃蕎ゑや梅の花　少牙

梅咲や窓いゝとつくなよら　一兎

暁さ薮の椿乃ほやまても　可挺

まさ風うも海れハ世稀く柳かな　帯代

雪解や境乃嶋乃あつちらち　白兎

申
春来

初年の日和れにせむし餘の禽　菊阿

春かゝれゆりめに入帰るかな　吟水

しけりも捨る一夜や年忘　流下

餘梅や匂きハとしの蕎結年　条丸

久々白兎師へ寺法
打移き祝ひのこ

延引ハ松まひるゝそ春の梅　扇風山人

表

例の連中竜山亭にて
お家に招りて

国まハ静る我まさそし志　渓兎

小雨降る夜我業る梅　松斬

聊しさ徳る家も交ともあそて　然石

恵ハ迎れもしれ話すし　可挺

さらしき給にゐるやの飲世ある　雨柳

大工仲るの筆ふ飯甚　宥里

夕ぎれの黒りて月も宗陽ふ　路雉

淀しれ西之遠ふすく森　帯代

歳守

兎の旦日の夕も明年て
今やり年の[illegible]を君
あり也

撞人もおしみ寄らぬとしの鐘　松斬

京橋治枝